図書館だより

LIBRARY INFORMATION

ゆっくり本を楽しむ

今年も残すところわずかとなり、寒さが身に染みる季節となりましたが、子ども達にとっては嬉しいクリスマスです。国や地域によっては、クリスマス文化が異なります。スウェーデンでは「トムテ」、アイスランドでは「ユールキャットやユールラッズ」、ドイツでは「クランプス」、ロシアでは「ジェド・マロースやスネグーラチカ」がプレゼントを配るなど、さまざまです。今回は子ども達が楽しみな、クリスマスについての本を紹介します。

今月のおススメ

「トムテと赤いマフラー」
レーナ アッロ　文
カタリーナ クルースヴァル　絵
菱木 晃子　訳

「賢者のおくりもの」
オー・ヘンリー　原作
いもとようこ　文・絵

トムテと赤いマフラー

トムテはスウェーデンに伝わる古い家の床下や農家の納屋に住む家を守る小人です。スウェーデンのクリスマスでは、サンタクロースがプレゼントを配るのではなく、ユールトムテ（クリスマスのトムテ）が、トナカイやヤギの引くそりに乗り、プレゼントを配ります。この物語は、主人公が小さい頃になくしたすてきな赤いマフラーを、トムテが届けてくれるお話です。渡り鳥みたいに旅をするトムテ、物語はどのように進むのでしょうか。

光村教育図書

賢者のおくりもの

ジムとデラという貧しく若い夫婦には、自慢ができるものがありました。ジムは祖父と父から受け継いだ金時計、デラは栗色の美しい髪でした。お互いのクリスマスプレゼントを買うお金が足りない２人は、プレゼントを贈るためにある行動を取ります。

「贈り物をやり取りする人々の中で、この２人のような人こそ最高の賢者なのだ」と作者は書いています。お互いを思いやる気持ちに心が温まる、クリスマスの物語です。

金の星社

1月 図書館カレンダー

2022 年　January

日	月	火	水	木	金	土
						1 ■
2 ■	3 ■	4 ■	5	6	7	8 ◎
9	10	11 ■	12	13	14	15
16	17 ■	18	19	20	21	22
23/30	24/31 ■	25	26	27	28 ■	29

■**休館日**：月曜日（祝の場合は翌日）、図書整理日
◎**お話会**：１月８日土午前 10 時半から

図書館ホームページでは、利用案内や図書検索など図書館の情報を掲載しています▶

【お知らせ】
◎お話会は、新型コロナウイルス感染症の影響により中止となる場合があります。

問 図書館 ☎ 029-897-0647

あじさい土曜名画座

飛べ！ダコタ

【上映時間：109 分】

▶日時　１月８日土午後２時 / 午後１時半受付・開場
▶定員　先着 20 人
▶場所　あじさい館［視聴覚室］
▶料金　100 円

問 霞ヶ浦中地区公民館　☎ 029-897-0564
※鑑賞の注意点 / マスクは必ず着用してください。

【出演】比嘉愛未、窪田正孝

【ストーリー】
佐渡島の小さな村（高千村）で実際にあった実話を基に描いたヒューマンドラマ。終戦から５カ月後、海岸に不時着したイギリス軍の要人機「ダコタ」が飛び立つまでの間、イギリス兵を温かくもてなす。

あじさい館 ホール展示 作品紹介

１月 作品展示

◆獅子頭彫刻同好会
◆茨城県立土浦特別支援学校

▶期間　１月５日水～１月 30 日日

あじさい館では、市内の文化団体などが作成した絵画や写真、陶芸、工芸品の芸術作品などを月替わりで展示しています。ぜひ、ご覧ください。　問 生涯学習課　☎ 029-897-0564

歴史にふれる

伊藤幾久造とかすみがうら市

▲雪中美人

▲紅葉狩り

■伊藤幾久造という人物をご存じですか

伊藤幾久造は、大正から昭和にかけて活躍した挿絵画家で、かすみがうら市にゆかりのある人物です。

明治 34 年（1901 年）に東京日本橋区で生まれ、12 歳の頃に浮世絵作家である中山秋湖に入門し、その後 16 歳の時に美人画で有名な伊東深水に日本画の神髄を学び始めます。

大正 11 年（1922 年）、21 歳の時に伊藤深杏として挿絵を発表し、翌年から伊藤幾久造の名で活動を始めると、たちまち人気を得て、少年雑誌の挿絵画家として活躍しました。「まぼろしの城」「龍神丸」など高垣眸とのコンビが多く、特に昭和 10 年（1935 年）に「少年倶楽部」で連載された「怪傑黒頭巾」が有名です。

■伊藤幾久造ゆかりのかすみがうら市

大正 13 年（1924 年）、23 歳の時に同じ伊東深水の塾生であった奥野すずと結婚し、幾久造一家は、第二次世界大戦中の昭和 18 年（1943 年）、東京から旧下大津村戸崎の松学寺に疎開しました。松学寺には、妻すずの姉さよが第 32 世銀亮和尚へ嫁いだ関係で疎開したようです。幾久造は、戸崎地区をはじめ、近隣の人々に大変世話になり、そのお礼にさまざまな絵を描いて贈りました。その後も出島地区の人々と交流を深め、この地域に多くの作品を残しています。終戦後も、戸崎地区に新居を設け、昭和 24 年（1949 年）までの４年間居住しました。

令和４年度には、企画展「伊藤幾久造とかすみがうら市」の開催を予定しています。伊藤幾久造の作品の調査もしていますので、作品をお持ちの方がいましたら、歴史博物館までご連絡ください。

問 歴史博物館 ☎ 029-896-0017

▲赤穂浪士四十七士

文芸ひろば

投稿作品

千代田俳句同好会
永らへし二人勤労感謝の日　大西周
冬の月天体しょうをながめけり　加藤貞江
暮早し赤提灯の赤きこと　榊原清志
大木の真下万両の紅濃かり　桜井愛子
湯たんぽの温みこの世の深眠り　桜井筑蛙

紫陽花俳句会
新茶にお国訛りの割烹着　飯田功
菊の香にほっと一息散歩道　久保庭悦子
風の中風と分けゆく花野かな　萩原とし子
語ること胸に仕舞ひてとろろ汁　福田宏通

出島短歌会（千代田中学校生徒の作品）
風ふいてひとりで回る風車風を無くして風車かな　横手樹
鳥の声くらやみから目を開ける世界のゆがみ今日の始まり　茅根奏音
別れの日涙に変わるありがとうまた会えるよねと旅立つ仲間　鈴木楓果
あの日見た虹に染まる夕焼けが記憶の中ではなれない　鈴木滉斗
夏の夕部活おわりの下校中田に反射するまっかな夕日　小松崎晃輝

投稿作品
大相撲高齢の玉鷲の若々しく一気の取り口に元気をもらって今日も頑張る　斉藤勝広
此岸より５００万余に手を合わすコロナ犠牲の霊曼珠沙華共鳴す　近藤善康
コロナ禍の春に芽吹きのさみどりも青葉しげりて紅葉となれり　中島良平
秋雨に冷寒おぼえ炬燵出し日課の脳トレ一人居の午后　沽野はつ子
船旅で明石海峡淡路島ライトアップで眩く顔に　横井正子
頂に雲の衣をおおいつつ霞の富士か浅間の山に　石塚清
ドアノブに走る火花や冬来る　竹村啓子
棘の中双子の柚子の笑顔かな　兼西清治
白サギや大羽広げて落穂かな　石橋たかの
ちぎれ雲輝き遠く姉暮う　関和代

投稿作品（俳句・短歌・川柳）を募集します。１月６日木までに秘書広報課（〒 315-8512 上土田 461）へお願いします。
※応募多数の場合は掲載されない場合がありますのでご了承ください。また、音声読み上げに対応するため、漢字にはふりがなの記載をお願いします。（内容を確認する場合がありますので、電話番号もご記載ください。）